

団体名	桂～新生児の肌着を作る会～
事業名	縫うことで世代をつなぐプロジェクト

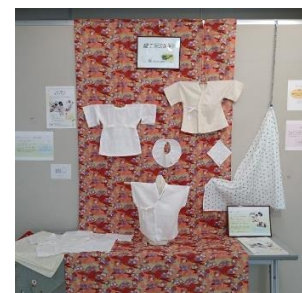
目的・背景	事業の効果
<p>①縫い手の増加・・・体験者が月に一度の集まりに自由参加。その中から最終的に3名程度が縫い手として定着することを目標とする。</p> <p>②カリヨンにて「小さな作品展」を開催。そこで「新生児の肌着がどのように作られ、どのような作品が作られているかを地域にアピールする。アンケートを実施し、客観的にどのような評価が得られるかを確認する。</p>	<p>① 縫い手自身が地域社会とのつながりを持ち、生きがいを見つけることができる。</p> <p>② 「縫うこと」をテーマとした地域の居場所が生まれる。地域の多世代をつなぐ、というストーリーを持つ「新生児肌着」の認知が広がることで、高津区のイメージアップに貢献する。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>①7月からは月に1～2回程度定期的で開催した。【アンケートより】○若いママとお話できて楽しかった(70代)○育児のことを聞いてよかった。(30代)○家で一人で縫うより楽しかった(70・40代)②88歳の講師と知り合い、メンバー達と交流できた。講師自身も、「この年になって若い方々と交流したり社会のために役にたてるとは思ってもいなかった」とおっしゃってくださり、大変情熱的に、たくさんのことを教えてくださった。③いくつかのイベントに参加することができた。ターゲットが狭いだけに、認知・販売まで行き着くのは難しいが、「赤ちゃんが生まれる」「お祝いに」というときにお願いしたいという声を、作品を手にしたイベントの参加者からいただいている。</p>	<p>①定期的な開催をすることで、カリヨンでの縫いものの日を定着させていく。</p> <p>②イベントへの出店は、たくさんの方に肌着を手にしていただくチャンスとなることがわかった。来年度も積極的に参加する。作品の背景などを知っていただいたく機会をたくさん設けていきたい。</p> <p>③来年度は「妊婦さんのための肌着作り」の講座を仕掛けていく。より多くの人にこの事業を知っていただき、手作りの肌着の良さを知っていただく機会を増やしたい。</p> <p>④ 肌着を軸として、縫いものが好きな方が寄り合える場をこれからも提供していきたい。</p>



フユ子先生とメンバー達



世代関係なくおしゃべりをしています。



作品展の様子。

団体名	川崎不登校・ひきこもり親の会ネットワーク
事業名	川崎不登校・ひきこもり親の会ネットワーク事業

目的・背景	事業の効果
<p>各地区で活動している団体は地域限定的で広く認知されるまでになっていない。そこで各地域の団体が連携をし、川崎の中で一つの連合体として活動することで、より広く認知され安心と信頼を得ることができると考えている。川崎の中で、不登校やひきこもりで悩んだとき、ひとつの連合体として責任を持って相談できるところがあるということは近くの親の会に安心と信頼をもって参加しようという気持ちを大きくしていくことになる。川崎のどこに居ても安心、気軽に相談できることは重要であるとする。</p>	<p>各地区で活動している団体が単体として活動しているだけでなく、川崎の中で連携して不登校ひきこもりについて共有し、一緒に活動する連合体となることで、川崎のどこに居ても安心して相談できるということは親にとって重要なことである。初年度、川崎の連合体として広く知らせていくためにネットワークのマップと内容を紹介したパンフレットを作成した。同時にネットで検索できる WEB サイトも立ち上げた。パンフレットは 4500 部印刷して 3700 部を小中学校、公共機関等に配布することができた。「パンフを見ました」と新しく相談にくる人も増えている。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>今回作成したパンフレットを参照 ※今回 4500 部印刷した 川崎市の各小中学校公共機関に 10～15 部配布した ※配布した後、「パンフレットを見ました」という新しい参加者も増えている。 ※ネットワークとしての相談だけでなく、学べる機会として講演等も計画したが、コロナ禍の中で、今年度は中止することになった。次年度以降コロナの状況を見ながら講演も行っていきたい。</p>	<p>初年度として各団体が連携して各団体の所在地活動内容を記したパンフレットを作成し、川崎全体に 4000 部近く配布することができたことは大きな第一歩だと考える。また WEB サイトでも検索できるということは、不登校やひきこもりで 1 人で悩んでいる親にとっても朗報だと考えている。しかし、情報だけではなく活動の充実、相談に来て安心できた、力になったという活動の内容の充実が大きな課題になってくるとも考える。次年度は団体のひとつの「多様化プロジェクト」の方で別の対象者に対してパンフレットを作成し、配布してもらえるということで活動センターの助成金は一年休みにして、次年度の一年間は各団体との連携を深め、内容の充実に向けて各団体の交流に力を入れ活動内容の充実と多様化に向け検討を進めていく。</p>



川崎版
不登校・ひきこもり
親の会 MAP



親の会で語り合い心を軽くしてみませんか？
 再び話を聴くための場を設けたい。また、語り合うことはあります。語り合うことで、まっさらな気持ちになります。
 川崎市内の不登校・ひきこもりの親の会が連携を築きました。
 ※川崎の不登校やひきこもりについて見えては来ません。

川崎不登校・ひきこもり親の会 MAP
 【目的】
 川崎市内の不登校・ひきこもりの親の会が連携を築き、互いに支え合える場を創出する。
 【活動】
 親の会、語り合い、Time, Tea Time、ひきこもりネットワーク
 【地域】
 川崎市、不登校やひきこもりの親の会、川崎市内の各小中学校、公共機関
 【担当者】
 川崎市、川崎市市民公益活動助成金事務局



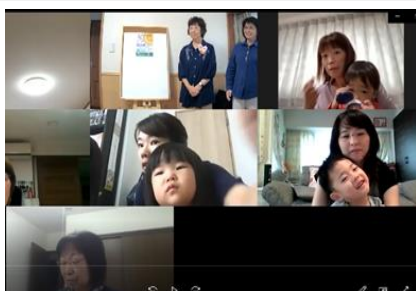
不登校を考える川崎たまの会
 【目的】
 不登校やひきこもりの親の会が連携を築き、互いに支え合える場を創出する。
 【活動】
 親の会、語り合い、Time, Tea Time、ひきこもりネットワーク
 【地域】
 川崎市、不登校やひきこもりの親の会、川崎市内の各小中学校、公共機関
 【担当者】
 川崎市、川崎市市民公益活動助成金事務局



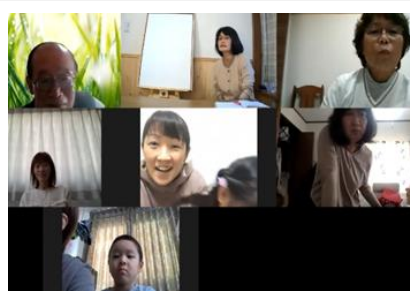
親の会「たまりば」
 【目的】
 不登校やひきこもりの親の会が連携を築き、互いに支え合える場を創出する。
 【活動】
 親の会、語り合い、Time, Tea Time、ひきこもりネットワーク
 【地域】
 川崎市、不登校やひきこもりの親の会、川崎市内の各小中学校、公共機関
 【担当者】
 川崎市、川崎市市民公益活動助成金事務局

団体名	くうけん塾
事業名	おはなし会・訪問事業

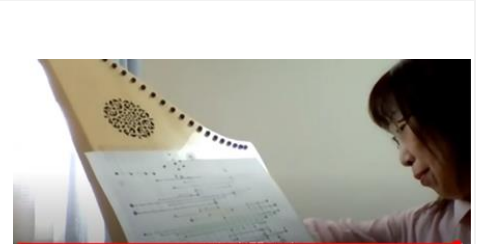
<p>目的・背景</p> <p>個性が強くて言動を理解してもらえない等、他と少し違うお子さんとその保護者は、社会の中で、育て方が悪いと排除される傾向にある。何とか世間一般にと、お子さんに対して過度な制約をしようともあり、専門機関と繋がるほどではないため、相談する場所もなく孤立してしまうことも多い。</p> <p>そこで、敷居の低い、誰でも相談が出来る場所、お子さんについても認知機能の特性を踏まえた支援のできる場所が必要となる。</p> <p>その場所を提供するためにくうけん塾がある。</p> <p>今回は、お子さんや、その保護者の方々を対象に、楽しい時間を過ごしてもらおう事、その存在を知ってもらおう事、を目的として「おはなし会」を開催した。</p>	<p>事業の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育てに戸惑いを感じている保護者及び支援者は、子どもの困った現況を客観的に捉える事が出来、子育ての方法によるものではないと分かり、安定して生活できる。 ・子育てに疲れを感じている保護者が、ちょっとほっとする時間を持ち、専門機関という敷居の高いところではなく、気軽に相談できる場所があることで安心して子育てが出来る。 ・注意ばかりされていた子どもが、認知の特性に合わせて支援してもらうことで、日常生活が楽しくなる。 <p>支援者とお子さんと保護者の相互関係により子育てが楽しくなる</p>
<p>実施結果</p> <p>コロナ感染症拡大の影響により、オンラインおはなし会となる。参加を希望する親子は、あらかじめ参加の意思表示を行い、アドレスや名前を通知する必要があり、誰もが気楽に参加できる状態ではなく、チラシの効果は、あまり望めない状態であった。</p> <p>そのため、知り合いから知り合いへと口コミを通じて参加者を募り、実施することになった。</p> <p>先ず、開催時に趣旨の説明を行い、理解してもらった。</p> <p>オンラインで一方向的に配信される人形シアター等はあるが、リアルタイムでお子さんとの掛け合いの中で会が進行していく楽しさがあり、穏やかな雰囲気に包まれて終了できた。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>オンライン配信となってしまい、気楽に参加してみようという人や、飛び込みの参加は期待できなかったが、定期的に配信することで、誰もがアクセス可能な方法を構築していきたい。</p> <p>Web 環境の整っていない人たちにどのように届けていくかを検討中</p> <p>→具体的には、地域とのつながりが少なく、HP 等で情報を得にくい方に向けた、川崎市内のこどもの居場所活動を紹介する冊子「こどもの居場所活動紹介ガイドブック」に掲載</p> <p>→寺子屋事業に参加していく</p>



おはなし会 1回目様子



おはなし会 2回目様子2



おはなし会 2部様子3

2020年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	COCO せせらぎ手作りの会
事業名	手作りの会

目的・背景	事業の効果
<p>「coco せせらぎ」のまわりは住宅地が広がり建物の前には遊歩道があり 高齢者が住みやすい環境である。</p> <p>しかし自ら散歩等に出かけられない人達も居るのではないか、足腰の弱い人達も居るのではないか そんな人達も「手作り会」なら参加出来るのでは と考えこの会を設立した。参加した人達が作品作りを通して 人と人がつながり合えるような関係作りを目指している。</p>	<p>この手作り会の参加を通して、作品を作りながら「ここわからないから教えて」「今度続きをしたいから お家におうかがえして良いかしら」 などと人と人のつながりが生まれている。</p> <p>この会がふれあいの場となってきました。 口コミで地域でも広がり参加したいとの申し出もありますがコロナ禍では、参加人数を増やすことも出来ずコロナ終息後の為に こまめな連絡をとりあっています。</p> <p>終息後のために こまめな連絡を取り合っています。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コロナ禍という特別な環境の中での実施となり予定していたことが なかなかできなかった。</p> <p>実施出来ない時は密を避け、検温、消毒等を徹底しての開催となった。</p> <p>閉じこもりがちな高齢者なので久しぶりに会うと にこにこしながら「今日はこれ 完成させたいのよね。」「ここがわからなかったのよ」 などとイキイキと作品作りに取り組む姿が見られた。 このような姿から手作りの会の重要さが ますます感じられました。</p>	<p><課 題></p> <p>月一回の活動日 制作時間 三時間ほどで一つの作品を完成させる事はなかなか難しい。どんなものを作りたいか</p> <p>計画段階で参加者にも意見を求めるが、いろいろな条件の中で『何を』と云う作るものの決定も難しい</p> <p><今後の展望></p> <p>作品作りを通して孤立しがちな高齢者がつながり合えるような関係作りをめざしていきたい。</p>



距離を離して(編み物です)



可愛い小物入れ



飾り物(梨の形)

団体名	まごころキッチンプロジェクト
事業名	食を切り口とした、地域と連携した防災啓蒙活動

目的・背景	事業の効果
<p>川崎市には幅広い年代の方が生活しています。今後想定される自然災害や緊急事態を乗り越えられるように防災講座を開催することで、行政の助け(＝公助)だけではなく、各自それぞれ備えること(＝自助)、ご近所の方と助け合うこと(＝共助)を広めていくことを目的としています。しかしながら、日常生活では無関心になりがちな防災に多くの方に興味・関心を持ってもらうため、「食」を切り口として、川崎市の飲食店と開発したレシピを使ったイベントや、地域のコミュニティや施設と協力した防災啓蒙活動を行います。</p>	<p>”食”を切り口とした「地域密着型」防災啓蒙活動を行うことで、通常の防災講座をよりも、食を通じて好奇心や関心をもって参加をしてもらえることが期待できます。講座で学んだことを今後想定される自然災害や緊急時に対して生かしてもらいます。また講座内容も川崎市の防災の備えや防災マップを紹介するなど、全国共通の防災知識だけではなく、『地域見密着』ならではの現実に即した講座を行います。そして各自それぞれ備えることが出来る(＝自助)、ご近所の方と助け合っ(＝共助)、非常時を乗り越えられるような地域コミュニティを作られ、行政(＝公助)に任せきりにしない、強い川崎市を個人単位で形成していきたいです。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コロナにより講座をオンラインに切り替えるなど、集客面では年間を通して約60名程度になりましたが、講座最後にアンケートでは、いずれの回も5段階評価で参加者の「防災に興味を持って頂けたでしょうか。」「セミナーの内容はどうか」を平均で4.0以上を獲得しており、講座の内容面では高く評価されており、対面ではなくオンラインの講座でもセミナー内容の充実と参加者への理解を深めることが出来たました</p> <p>オンラインであることを逆手にとり、リアルでは出来ない「車中泊の実際の車両を使った生中継の講座」や、「オンラインでの料理講座」で日中あまり自宅から動けない方でも参加することが出来たりと、リアル開催を望まれた声も確かにありましたが、逆にオンラインから出来たこともあったと思われます。</p>	<p>オンライン講座では『自助』に対する知識を深めることが出来ましたが、共助の面では、リアル実施ではないため、講座を通しての地域の方がつながることが出来ず密着型の助け合いという「共助」では、コミュニティ形成という目標が達成できませんでした。オンライン上でもコミュニティが形成されるように地域ごとの講座を行うことで、横のつながり図れる施策を今後実施していきたい。</p> <p>またお年寄りや機材をもっていない方など、オンラインでは参加者が限定され、機会をうかがいながらも対面での講座を開催し、まずは社会的弱者が孤立しないように、積極的に防災を通じたコミュニティづくりができればと思いました。</p>



7月講座
オンラインで学ぶ車中泊と防災



10月講座:トイレと台風防災講座
(オンラインとリアルハイブリッド開催)



1月講座
オンラインで学ぶ非常時の料理講座

団体名	一般社団法人カノンパートナーズ
事業名	健康福祉増進事業。主に高齢者を中心に「健康寿命アップ体操」を行います。

<p>目的・背景</p> <p>急ピッチで進む高齢化。その傾向は今後もさらに進むと考えています。このような社会の中で注目されているのが健康寿命を伸ばすという考え方です。</p> <p>私たちは、川崎市中原区の介護施設で自立支援や機能訓練、認知機能の維持・向上などの機能訓練に携わり成果を上げてきました。また、地域の介護予防活動を行う中で、高齢者やご家族の様々な声から「効果のある機能訓練」が行われていない実態を知ることができました。このような背景から「我々の経験を活かした介護予防活動を地域に浸透させ、健康寿命を延伸させる」ことを目的に活動を行うこととなりました。</p>	<p>事業の効果</p> <p>① 健康を維持し健康寿命を延ばすために、定期的に運動する機会＝居場所づくりを提供し、体力、筋力、生活機能をアップさせ、高齢者のQOL(生活の質)の向上を達成しました。</p> <p>② 体操参加者のコミュニティ・ネットワークが構築でき、見守りネットワークやイベントを紹介するなど参加者の社会参加を促すことが出来ました。</p> <p>尚、相乗効果で介護保険料の削減や医療費の削減も期待できます。</p>
<p>実施結果</p> <p>新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言から約5ヶ月間、体操教室を中止せざるを得ない状況となりました。</p> <p>その間、体力維持のため「自宅でできる体操のチラシ」の配布や電話などでコミュニケーションを継続し、再開後の参加意識を高めるために工夫を行いました。</p> <p>幸いにも離脱者は少なく(3名/28名当時登録者数)、また、再開後にはロコミで会員数は倍増(25名から53名)となりました。</p> <p>私たちの体操教室で行っている【機能訓練の内容や家庭的な雰囲気で行う】の方針は、正しかったと自負している次第です。</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>2021年度は、現教室の3教室会員数を70名とし、全体5教室100名を目標とします。介護予防の重要性を浸透させます。中期目標は、川崎市他区の教室開催を検討し全体で200名と、リモート教室の開催も行ってまいりたいと考えています。</p> <p>上記目標達成のための課題は、</p> <p>① ビジネスでつながる仲間やパートナーを増やす ② 体操教室の場所確保 ③ 人材の育成 他</p> <p>以上です。私たちの【機能訓練の内容や家庭的な雰囲気で行う】教室の開催要望があれば積極的に関わり、介護予防活動を様々な地域で浸透させてまいります。(コロナ感染状況により変更あり)</p>



小杉教室 可動域ストレッチ



中原教室 猫背改善・姿勢矯正体操



新城教室 下肢筋力トレーニング

団体名	ゆっぽ会
事業名	姿勢の地域交流会

<p>目的・背景</p> <p>ゆっぽの会は年間約12回120～200人に姿勢の大切さを伝えている。多くの方が関心を持ち、一人ひとりが健康意識を向上し、家族に伝えることで姿勢の大切さが川崎市民に伝えられる。年間の目標としては、毎月市民の交流の場を作るイベントを行い、参加者20名ほどの人に姿勢チェックを行う。子供たちの長期休みには親子イベントを行う。姿勢の専門家と理学療法士の講座を企画し、高齢者の健康意識を向上させる。年間500名に姿勢の大切さを伝える。</p>	<p>事業の効果</p> <p>年間を通して姿勢の相談が出来る場所を作り健康意識の向上と共に地域の交流を目指す。</p> <p>子ども自身にも姿勢の大切さを伝える事と同時に日常生活を共にする親子の姿勢は似てくることを伝え、家族で姿勢を意識する環境づくりを目指す</p>
<p>実施結果</p> <p>もつすみよしみんなの市場 姿勢相談 合計60名姿勢相談 毎月数人の方が参加してくれましたので相談し易い場所を提供できました。</p> <p>親子講座 全8回 32人 子ども達に話す事により普段の生活の中で姿勢を意識してもらえ。側彎症のチェックを32人できた。</p> <p>いい姿勢で Lets Dance～キミも姿勢小町の仲間入り～ 視聴人数3月 30 日配信日当日434名視聴</p>	<p>事業の課題と今後の展望</p> <p>アンケート調査が十分にできなかったので次年度実施したいと思います。</p> <p>今年度、参加をためらう方が多いと考え参加費をなくし、多くの方に参加していただけるようにしました。</p> <p>調査対象が少なかったため【自宅に帰っても読み返せる資料を製作し販売する】が達成できず次年度引き続きおこなっていく。</p>



団体名	Eyes to the World
事業名	小学校低学年のための国際教育事業（新学習指導要領実施に伴う小学生低学年児童に向けた英語・海外文化に対する興味関心の育成事業）

目的・背景	事業の効果
<p>新指導要領が始まることに合わせ、新3年生からは英語学習がスタートします。</p> <p>体系的に英語を学びだす前の低学年児童の、英語への興味、海外への関心を引き出すことは、子供たちの英語学習の礎になるはずです。「勉強ではない学びの英語・知識としての海外文化」としてゲームなどを取り混ぜながら、楽しい英語・海外文化への知識を身に付けてほしいと思っています。</p>	<p>常により良い授業作りを目指し、結果子供たちにとっての「世界への目」を広げることを目指します。わくわくのスタッフ小学校教員、児童にアンケートを実施する。その結果をもとに子どもたちの反響が特によかったテーマについて、私たちの反省点を混ぜながら、より子どもに印象に残るようなイベントへと向上させていく。また、子どもたちの興味のあることや好きなことなどを調査し、子どもたちがより関心をもつような授業をつくっていく。</p>
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>コロナのため、対外的に人を集めるイベントは中止してしまいましたが、小学校学童わくわくプラザでイベントは実施できました。</p> <p>今教育の場でいわれている「多様性」を取り入れるイベントの開催ができ、また子供たちを動かせないため、私たちの本来の音楽やゲームを取り入れた活動はできなかったものの、わくわくプラザ内でもコロナで行動を制限されてしまっている子供たちの笑顔を、たくさん引き出すことができたのは大きな収穫ではありました。</p>	<p>活動グループの認知度を高めること 活動性への収益性を高めること。</p> <p>今年は市民活動センターの方の大きなご協力をいただき、コロナ過の中での実施ができました。ただ、やはり小学校の授業の一環としてとらえていただくという私たち本来の目的にはまだ遠いので、継続性のために自分たちで、広報活動をしっかり行っていくことが課題であると感じています。</p> <p>また、やはり事業への収益性がないと、協力者を得ることがなかなか難しく、信用と私たちの実績を積んでいくことは今後の課題と考えます。</p>



2020年度かわさき市民公益活動助成金 事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	かわさきミュージックチャレンジ
事業名	第4回みんなでチャレンジコンサート

目的・背景	事業の効果
<p>かわさきミュージックチャレンジは、ノーマライゼーションのマインドを持って、誰もが音楽や芸術を愛し楽しむことを目的として、2019年4月から活動を開始した団体である。大人も子どもも、経験者も初心者も、障がいがある人もない人も、目指す目標や音楽に対するスタンスが違っていても、音楽を発表する場や素晴らしい音楽を聴く機会を広げるとともに、出演者と観客がそれぞれの特性を理解し共に楽しめる音楽会の創出を目指している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・出演者がステージで多くの人前で演奏することにより、日々の生活に活気を与え、自信につながる。 ・表現の自由の喜び・楽しみを出演者のみならず、ご来場者とも分かち合う。 ・障害の有無やスタンスに関わらず、共に音楽を楽しむ一体感を味わい、ノーマライゼーションへの理解が深まる。 ・障害のある方や家族が、周囲を気にすることなく演奏を聴くことができ豊かな生活につながる。
実施結果	事業の課題と今後の展望
<p>第4回誰でもチャレンジコンサート 日時: 2020年12月5日(土) 13:30開演 会場: 麻生市民館ホール</p> <p>演奏者: 13組21名 スタッフ: 9名(ボランティア含む) 観客: 109名</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の課題 ① 演奏者については会員制度を取らず、開催ごとの募集にしているため、演奏者の参加の意思決定の把握に時間がかかること。 ② 参加者について、チラシや SNS、他団体への PR をさらに充実させ観客数を増やす。 ・今後の展望 <p>この形のホールでの発表会開催を、年に2回～3回の安定開催を目指している。そのためには、会場の確保が必要不可欠であり、アンテナを張ったり関係団体と協力して会場の確保に努めたい。</p>



出演者集合写真。障がいのある方と一緒にユニットを組み演奏活動をなせるグループ。お母さまとの連弾などバラエティーに富む。



お互いの演奏に影響されて、次回は一緒に演奏しようと約束。ノーマライゼーションの始まりである。



プロ並みのステージマネージャー。演奏者への配慮やスムーズな動きに助けられる。多様なスキルをお持ちの方の活躍の場としても意味がある。